

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4492200011
法人名	医療法人久寿会
事業所名	グループホームすずらん
訪問調査日	平成20年5月13日
評価確定日	平成20年 8月 7日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4492200011
法人名	医療法人 久寿会
事業所名	グループホームすずらん
所在地	速見郡日出町大字藤原1691番地1 (電話)0977-73-0126

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年3月30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算	7.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000円	その他の経費(月額)	光熱費他 14,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250円	昼食 400円
	夕食	450円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(平成20年5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2		2名		
要介護3	2名	要介護4		2名		
要介護5	1名	要支援2		0名		
年齢	平均	82歳	最低	73歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鈴木病院 すずらんクリニック 河野歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 利便性のよい幹線道路沿いに位置するが、自然にも恵まれ全ての居室の窓から外の景色を望むことができる。
- 2 町報に掲載している行事に参加したり、利用者の畑で利用者と共に芋作りをして収穫するなど、地域の資源を活用している。
- 3 開設間もないが、職員同士がお互い信頼し合い、チームワークがよくとれており、利用者の表情も穏やかである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	今回が初めての評価のため、該当しない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	事前にコピーした自己評価票を用い全職員で事前に評価について検討している。
	重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者、家族、地域包括支援センター職員(市町村職員)、管理者、職員で、定期的に開催し質問や要望等に対し経過報告など行っているが、サービスの向上につながるまでには至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	毎月ホーム通信を発行し、定期的に暮らしぶりを報告している。また、家族の行事参加や来訪時に面会して話したり、面会に来られない方には電話をするなどして報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域行事のお接待で近隣の家庭を訪問したり、地域のボランティアが書道や絵手紙の指導をする等行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の基本理念に、「ご家族や地域との関わりを重視」を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示をしているが、ミーティングなどで全職員へ共有の徹底には至っていない。	○	職員採用時や日々の申し送りなどを通じて全職員で理念を共有し、日々のサービスへ反映させていく。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事のお接待で近隣の家庭を訪問したり、地域のボランティアが書道や絵手紙の指導をする等行っている。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前にコピーした自己評価票を用い全職員で事前に評価について検討している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域包括支援センター職員(市町村職員)、管理者、職員で、定期的に関し質問や要望等に対し経過報告など行っているが、サービスの向上につながるまでには至っていない。	○	グループホームの移転を行った為、現在は会議メンバーに地域関係者が含まれていない。今後は地域関係者も参加してもらおう。また、サービス向上に活かせるような会議運営を工夫していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営の手続きなどその都度相談したり、パンフレットを持ち込んだりしている。また、市町村担当者が見学者とともに訪問するなどしているが、積極的な働きかけは行っていない。	○	サービスの向上へむけ、積極的な働きかけを行っていくことを期待する。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム通信を発行し、定期的に暮らしぶりを報告している。また、家族の行事参加や来訪時に面会して話したり、面会に来られない方には電話をするなどして報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは意見や要望を話しやすい関係ができており、面会時などに意見や相談をしている。また、家族の意見をもとに運営や介護の改善等を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には利用者や家族には早目に伝えたり、ホーム通信で紹介するなどしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は行っているものの、内部での勉強会や研修の共有がなされていない。	○	職員の段階に応じた育成のためにも、研修計画の作成や内部研修の開催、内外研修の共有化など工夫することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行っていない。	○	同業者との交流会への参加や研修等を通じて、サービスの質の向上へ取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在の利用者は併設施設のデイケア利用者や管理者がケアマネージャーとして関わっていた方ばかりで、すでに馴染みの関係ができていたが、サービス開始時にグループホームへ見学に来てもらったり、職員が直接利用者宅を訪問するなどしてより安心できるような関わりをもっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に子育ての話の聞いたり、昔は五右衛門風呂に入っていた事や、野菜作りなど、過去の知恵や経験を教えてもらったりしてお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などから希望や意向の把握を行っているが、記録や職員間での共有が不足している。	○	把握した希望や意向を記録し、その情報を職員間で共有できるような工夫が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望をふまえ、毎月の会議の中で、全職員で意見交換しながら介護計画書の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて家族や関係者と話し合いながら見直しを行っているが、定期的な見直しや評価が確実になされていない。	○	必要時だけでなく、定期的な評価や見直しを行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散髪、専門医の受診、野菜の苗を買う等希望に応じた買い物等、利用者や家族の要望に応じて個別の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望をもとに、併設病院以外にも、協力医や専門医と連携をとりながら適切な医療が受けられる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は本人や家族へ説明するとともに、全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは分かりやすい場所へ掲示し、必要な際は仕事のなかで適切な助言、指導を行い、その都度対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切に、できる限り自宅での生活スタイルを崩さないような対応を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備の手伝い、後片付けなど、利用者の力を活かしているが、職員は同じテーブルで食べていない。	○	職員も同じ物を食べたり、同じテーブルを囲み話をする等、食事を楽しむことの意義を考え、工夫することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができるよう対応しており、時間帯もできる限り希望に沿うように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近所にある利用者の畑を借りて、芋の栽培や、グループホームのプランターで野菜作り、調理、掃除、ゴミ箱の整理など、生活歴を活かした役割や楽しみごとを活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や体調にあわせ散歩をしたり、年3回程度は花見やカレイ祭りなどに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、外へ出る際はさり気なく付き添っている。また、扉には鈴が付いており、開閉時の合図になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器などの設備点検、位置確認を行っているが、グループホームを移設したため、避難訓練の実施や備蓄の確保はされていない。	○	法人での定期避難訓練は、間もなく予定している。グループホーム独自の避難訓練や備蓄品の確保が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の栄養士が献立を立て、食事の摂取量、水分はチェック表で確認している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の食器棚は、昔風のものを購入したり、利用者が作成した習字や季節感のある作品を掲示や好みの音楽をかけるなど、心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込み、安心して過ごせる部屋もあるが、ベッドやポータブルトイレの位置など配慮が望まれるところもある。	○	利用者が居心地良く部屋で過ごすために、家具の配置等の工夫などが望まれる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム すずらん
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県速見郡日出町
記入者名 (管理者)	田中 佐甲子
記入日	平成 20年 5月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の意義を全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所の関係性強化を謳った理念を作り上げている	○	家庭的な環境と地域住民との交流を行いながら、その人らしい生活が出来るように支援する
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲げているが、職員間でのミーティングや申し送りの場面での意識付けができていない	○	職員採用時や日々の申し送り時等、理念を伝え、理解し、日々のサービスにおいて理念を反映させていきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内、パンフレットに理念を掲げ、説明時には解りやすく伝えるようにしている		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人等の関わりが現在あまり持っていない	○	ホーム通信の配布等を行っていき、地域での理解を求め、近隣の人たちとの良い関係を深めていく
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の移転等があった為、まだ、現地域との交流が出来ていない	○	地域の一員として老人会や地域での行事参加が出来るように取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は取り組んでいない	○	今後は老人会への参加等を行っていき、地域の高齢者等の暮らしにも役立つような事業所作りを行っていく
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、サービスへの理解、サービスの向上が出来るように努めている	○	一人ひとりの評価への理解、問題点の改善計画をたてて取り組んでいく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では参加メンバーからの質問や意見、要望を受け、その経過を報告し、話し合うようにしている	○	評価の報告を行い、一つ一つ改善し、そのことに対し会議参加メンバーから意見をもらうようにしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者には運営上のサービスの課題について、その都度相談を行い、一緒に解決していくように努力している	○	今後も事業所の実情やサービスの取り組みに対し、市町村担当者へ伝え、一緒に取り組んでいきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会があれば説明会等に参加するように努力をしている	○	説明会に参加した職員を中心に勉強会を開き、理解を深め、必要なケースがあれば支援できる体制を作っていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者との会話や家族の対応等を見る中で、危険の早期発見ができるよう、職員間で報告を行っている	○	職員間での報告に常に耳を傾け、虐待が行われていないか注意していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には必ず自宅を訪問し、利用料金の具体的な説明や、状態変化による解約等の説明を行っている</p>	○	<p>利用者や家族が不安にならないよう、十分な説明を行い、納得ができるような配慮を行っている</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営が出来るように心がけている</p>	○	<p>ご意見や思いを伝えられる機会作りを運営推進会議や、日々のサービスを通じて行い出された意見や願い等を運営に活かしていく</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のホーム通信を通じ、日々の報告やその他の報告を行うようにしている</p>	○	<p>電話や面会を通じ、家族と密な関係作りを行っている</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との関わりの中で、意見や要望が言いやすい環境を作っている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングを月に1回設け、意見を聞くようにしている</p>	○	<p>職員間のコミュニケーションを密に取れるようなチームワーク作りをしていく</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の状況や要望に対し、調整が出来るように業務内容を話し合っている</p>	○	<p>日中・夜間とも馴染みの職員が対応できるよう、人員の確保をしていく</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や離職がある場合は、利用者・家族等に伝え、また新職員も紹介するように心がけている</p>	○	<p>利用者が不安や不満を持たないよう、移動や離職を最小限にとどめるように努める</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている	○	研修報告を毎月の会議で発表できるような体制をとっていく
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	現在、他事業所との交流がうまくできていない	○	会議に出席することや、研修会等を通じ、他事業所との交流を持って行きたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員のストレスや悩みを把握できるよう、話を聞くように努めている	○	気分転換のできる機会作りを行い、職員同士人間関係が良く保たれるように努める
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の資格取得に向けた支援を行い、本人の意向を重視しながら職場内でその資格を活かせるように努めている	○	やりがいのある職場の環境作りを工夫して作る
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談があった場合には、事前面談を行い、本人や家族にお話を伺い、状況把握するように努めている	○	よく話を聞き、状況を理解し、安心してサービス利用開始ができるように努める
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面談にて関係職員を交え、困っていることや不安に思っていること等の傾聴を行っている	○	時間のある限り、利用開始までの期間に何度も訪問を行い、不安の解消ができるように努力する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要と思われる相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、その後は必要に応じて援助内容の変更を行っていく	○	常に状態に応じた支援ができるように、職員間で連携を図っていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して利用ができるように、訪問を繰り返したり関わりを持つようにしている	○	やむを得ず、すぐ利用となった場合は、常にコミュニケーションを図り、安心できる人間関係作りを行っていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の不安や思いを知るように努め、安心して一緒に過ごせるような関係作りを行っている	○	利用者から学んだり、支えたりと一緒に穏やかに過ごせるように努める
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事等、話す機会を持つようにしている	○	職員と家族との関係を密に図り、本人と一緒に支えられるように努める
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日ごろの様子をこまめに報告し、家族との関わりを理解し、職員も家族的役割をするように努めている	○	本人と家族との関係が疎遠とならないように取り組んでいく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに住む知人や友人宅を訪問する事ができていないが、今まで利用していた理髪店等を継続して利用できるように援助している	○	時間にゆとりをもち、利用者と一緒に友人宅や家族の家を訪問できるようにしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係を知り、楽しく過ごせる時間作りを職員全員で取り組んでいる	○	利用者同士がお互いに支えあい、助け合うような関係作りを工夫する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>退所された利用者の家族との関わりが断ち切られないよう、機会があれば声かけを電話等で行っている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>日々の関わりの中で、言葉や表情に注意し、それとなく確認を行うようにしている。また、困難な場合は家族や関係者より情報を得るように努めている</p>	○	思いや希望を曖昧なままにせず明確に把握できるような工夫を行う
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>本人や家族から話を聞き取ってる</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>生活のリズムを知り、行動や小さな動作からも感じ取り、全体像を把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>ご本人や家族には日ごろの関わりの中で、思いや意見を聞くようにしている。また、アセスメントを含め、職員全体で意見交換を行っている</p>	○	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聴き、事業所外の関係者の意見も含めて課題となることをスタッフ全員で話し合い、介護計画の作成に活かしていく
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>変化に応じて、家族、必要な関係者と話し合い、臨機応変に見直しを図っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や気づきを記録し、職員全員勤務開始前に必ず確認する事を義務付けている	○	情報を必ず共有し、個別ケアに対し日々評価が行えるようにしていく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間電話での対応がおこなえるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域との交流ができていない	○	民生委員やボランティア等、多様な資源を活用し、少しでも安らかな生活ができる様に努める
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、配食サービスでの見守り支援が利用できるように支援している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会への参加で地域の情報をもらっている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の必要性がある場合は、主治医に連絡を行い受診介助を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の症状が変化したときなどは、家族とともに受診し相談を行っている</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問介護を利用している利用者に関しては、常に訪問看護担当看護師と連絡を取り、情報を共有している</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>定期的に面会に行き、様子を確認している。また、病院関係者により情報をもらい、退院へ向けての環境作りができるように努力している</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>まだ、環境が整っていない</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度の利用者に対しては、主治医と連絡を取り、話し合いを行っている</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移られる施設と連絡を取り、情報提供した</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護には常に注意している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけを行っている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の気持ちを大切にし、出来るだけ柔軟に対応できるようにしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の洗面からこの生活習慣にあわせ、支援している理美容は本人の意思を尊重し、職員がカットを行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備の手伝い、後片付け等、利用者と一緒にできることは行っている	○ 食材の買い物等も一緒に出来るような場面作りをしていく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みのおやつ、飲み物を日常的に楽しめるようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している尿意の無い利用者に対しては、声かけ、対応の工夫を行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる利用者に対しては、声かけ、対応の工夫を行っている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。また、本人希望を考慮してゆっくり休息が取れるように支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な事、お願いできそうなお手伝いを頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾をもらい少額の金銭を所持している利用者は、希望に応じてお金を使えるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や季節に応じて外出を行い、季節を感じられるようにしている	○	時には外食が出来るような場面作りをしていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物に行きたい等申し出があった場合、できる限り外出が出来る様になっている。また、事業所側からの外出の声かけも行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションを利用して絵手紙などを作成し、家族に渡している	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族や友人が訪ねてきても、暖かくもてなすように心掛けている	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りの中で、行動制限はしていない。拘束となる行為は行っていない	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠をしていない。ドアを開けるとわかるように鈴の取り付けを行っている	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じ空間の中で業務作業を行い、全員の状況が把握できるようにしている。夜間は数時間後に様子を確認している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは利用者の目に触れない場所に保管、その人に応じて、見守りの中使用できるようにしている	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な利用者には必ず介助や見守りを行うようにし、転倒の予防を行っている。服薬がうまく出来ない利用者には安全に服薬が出来るように管理を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を実施した。緊急時は管理者に連絡を行い、指示を仰ぐようにしている	○	緊急時マニュアルを作成し、迅速に職員が対応できるようにする。定期的に応急処置の勉強会を行って生きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器などの設備点検、位置確認を行っている	○	利用者を含めた避難訓練を定期的に行って生きたい。非常時の食料や水の確保していく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	車椅子のベルトの着用を希望される家族がいるが、抑圧感のない生活が出来るように、丁寧に説明し理解を求めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い、必要に応じ再検を行っている。状況に応じては、主治医に報告し、受診ができるような援助を行っている	○	スタッフが細かな変化に気付ける様に対応を行っていく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方箋のコピーをファイリングし、全職員が確認出来るようにしている。薬を預かった際、記名・日付けの記入を徹底している	○	誤薬がないように服薬確認を徹底する
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排便の確認を行い、水分摂取等に気を付けている。排便の状況は家族に伝え、情報を共有するようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きが行えるように、声かけや必要時に援助を行うようにしている。必要時には歯科医との連携を取っている	○	毎食後の口腔ケアの徹底

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事領を記録し、職員が情報を共有している。水分を定期的に摂取できるように気を付けている	○	一人ひとりに合わせた食事や水分の提供ができるように配慮を行う
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する掲示を行い、咳等が見られるときはマスクの着用を行うようにしている	○	感染症に関するマニュアルを作成し、職員での予防対策に努める。手洗い、うがいの徹底
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒の徹底、定期的に冷蔵庫内の清掃を行い清潔に保てるよう心がけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみのある玄関作りを行っている。また、清掃や整理整頓に心掛けている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者が作成した作品や習字などの掲示を行い、利用者が好む音楽をかけ、心地よく過ごせるように工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き、ゆっくりと座れる空間を作っている。また、テーブルの配置は気の合う仲間が側にいるような工夫を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの部屋には、ご自身の寝具を使用させていただいたり、ご本人が心地よく過ごせるように配慮している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えを朝・夕と行い換気にきをつけている。また、利用者の発汗の様子や冷えなどに注意し、調節している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の多い日は移動する空間が狭くなりがち	○	フロー内の整理整頓を図る
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が解らなくなったりする様な事がある利用者に対しては、声かけを行い混乱しないように気を付けている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに野菜を植えたりし、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方々が安心して、楽しく生活が出来るように居心地の良い空間作りを常に考えている。また、気持ちに寄り添い向き合っていく姿勢で接するように心がけている。